

開催日時：2025年7月20日（日）10：00～18：00/21日（月）9：00～18：00

場所：川崎市子ども夢パーク

参加人数：20名（履修者19名、ボランティア1名）

担当教員：西野 博之（非常勤講師・認定NPO法人フリースペースたまりば理事長）



○目的

多様な他者との出会い、リアルな体験活動を行うことによって、困難な課題に向き合える実践力を育む。様々な背景を抱える子どもたちとの直接的な関わりを通じて、子どもの気持ちの受け止め方を学び、子どもが発する「試し行動」に、どのように向き合い、コミュニケーションを図っていけるようになるかを学ぶ。

○当日の役割

20日（前日準備）

掲示物の作成・環境整備・ウォータースライダーづくり・『どろり』の土堀り・ミストシャワー・ステージ設営

21日（祭り当日）

受付・駐輪場整備・掲示・ウォータースライダー・ドラム缶風呂・どろり（泥のプール）



○学生の声

準備に何時間もかかっていたはずなのに、片づけはあっという間で体的には疲れていたはずなのに不思議と終わってほしくない、もっといたいと思うほどの達成感を得ることができた。

この2日間の実習は、今まで行ってきたボランティア以上に得るものが多かった。子どもの様子、子どもと関わるうえでの役割、遊びとは何かを深く考えることができる機会だった。そして子どもの笑顔と成長に変えられるものはないと感じた。今後どんな大人になっても子どものために考え、寄り添い、環境を整え、一緒に遊び笑い合える人でいたいと思った。

（人間科学科 2年 Y.R）

私自身も子どものように全力で遊ぶという貴重な体験ができた。普段の生活ではなかなか泥まみれになるような経験はできないため、まさに“非日常”の実習となった。特に印象に残っているのは、ウォータースライダーで遊んだ時のことだ。滑り終わった子どもたちが笑顔でハイタッチをしてくれたり、泥を使って私の顔にメイクを施してくれたり、心から楽しい時間を共有することができた。そのような瞬間を通して、子どもたちとの距離が一気に縮まり、私自身も童心にかえって思い切り楽しむことができたように思う。

しかし、楽しいだけではなく、自分なりの反省点や課題も見えてきた。たとえば、ウォータースライダーから出る際に、階段の下の地面が非常に滑りやすくなっており、実際に滑って転んでしまう子も何人か見かけた。その場では、私は「滑りやすいから気をつけてね」と声をかけたり、小さな子には手を貸して降りやすいようサポートしたりしたが、後になって少し考えさせられた。夢パークの理念には、「失敗や危険も子供の学び」という考えがある。私の行動は、その子にとっての「転んで学ぶ」という経験を奪ってしまったのではないかと、という葛藤が残った。

また、作業中に遊びに誘ってくれた子どもへの対応も難しかった点のひとつである。その時は、「今は作業中だからごめんね」とやんわり断ってしまったのだが、断り方や伝え方にもっと工夫ができたのではないかと後悔している。子どもの気持ちを傷つけず、でも自分の役割もしっかり果たすにはどうしたら良かったのか。次に同じような場面に出会ったときには、「終わったら一緒に遊ぼうね」といった、前向きな言葉で応えることができるようにしたいと思った。（人間科学科 2年 W.T）

